

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	千葉県	市町村名	野田市	大学名	
派遣日	令和 3年 12月 15日(水曜日) 13:30~15:00 13:30~ 本市の外国籍児童生徒、日本語指導の現状についての説明 13:40~ アドバイザーの方から指導・助言をいただきたいこと				
実施方法	派遣 / 遠隔				
派遣場所	千葉県野田市鶴奉7-1 野田市役所 601会議室				
アドバイザー氏名	横浜市教育委員会 学校教育企画部 小中学校企画課 主任指導主事 土屋 隆史 氏				
相談者	野田市教育委員会 指導課 指導主事				
相談内容	<ol style="list-style-type: none"><li>1 本市では、県より日本語指導対応の加配教員が4名配置され、また2つの関係機関に業務委託している。今後、それぞれの関係者が市の現状について共通理解し、連携して日本語指導を進めていくには、どうしたらよいか。</li><li>2 JSL対話型アセスメントDLAの導入について</li><li>3 ICTを効果的に活用した日本語指導について</li><li>4 「特別の教育課程」編成計画書・報告書の作成にあたっての留意点について</li></ol>				
派遣者からの指導助言内容	<ol style="list-style-type: none"><li>1 横浜市の加配教員への指導について行っていること<ul style="list-style-type: none"><li>・それぞれの指導経験に応じた担当者会議や研修会を年数回、実施している。</li><li>・内容は、日本語指導方法や授業公開、事例検討、情報交換等である。</li><li>・また、ファイルに委員会からの配付物等を保管してもらい、担当者が変わっても引き継げるようにしている。</li><li>・校内体制については、加配教員だけでなく管理職からのバックアップも必要。</li></ul></li><li>2 日本語指導が必要な児童生徒の判定方法について<ul style="list-style-type: none"><li>・DLAの実施については学校判断。JSL評価参照枠を活用して複数の先生で判定してもらい、ステージ5以下の児童生徒が、日本語指導が必要な生徒となる。</li></ul></li><li>3 日本語指導におけるICT活用について<ul style="list-style-type: none"><li>・デジタル教科書のルビ振りやハイライト機能は、外国籍児童生徒が授業に参加できるという点では有効であるが、理解させるところまでは難しい。</li><li>・三者面談等、通訳が必要な場面において、オンライン形式は有効。</li><li>・オンラインでの日本語指導は、会話練習等であれば有効ではあるが、立ち会う教員の確保や事前準備等を考えるとやはり対面で行う方が望ましいと考える。</li><li>・大学が作成している補助教材動画も数力国語で訳されており、活用できる。</li></ul></li><li>4 「特別の教育課程」について<ul style="list-style-type: none"><li>・年4回在籍調査を行っているが、そのうち5月の調査の際に日本語指導が必要な児童生徒のレベル、週あたりの指導時間数、指導方法(取りだし入り込みか等)を計画書に記載してもらい、定期的に校内で見直し、2月頃報告書を提出してもらう。</li></ul></li></ol>				

(様式3)

	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本語指導を受けている児童生徒全員分、個別の指導計画を作成してもらっている。一人ひとりの指導をよりよいものにしていくため、継続させていくため、中学3年生まで引き継いでもらう。</li><li>・JSL評価については市で進捗状況を確認し、進歩が見られなければ指導する。</li></ul> <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外国籍児童生徒の保護者に日本の学校体制や子どもの様子について話すときは通訳を交えて、可能な限り事実を話す。伝えるべきことは伝える。粘り強く話をしていく。外国籍児童生徒にとって1番必要なことは、「これから先、日本で1人でも生活できるように(=自立)すること」だと考えている。</li></ul>
相談後の方針の変化、今後の取り組み方針等	<ul style="list-style-type: none"><li>・この後、本市では日本語指導担当者連絡会議を実施し、市の現状についての情報提供や、関係者間での現在の取組み報告、情報交換等を行った。これを機に、今後、それぞれの関係者が連絡を取りやすい体制を作っていく。</li><li>・来年度に向けて、研修を取り入れたり、お互いの授業参観を行うなど、さらに連携が深まるような工夫をしていきたいと考えている。</li><li>・相談後、横浜市の「日本語に係る個別の指導計画」のデータを送っていただいたので、それを参考に本市の実情に合ったものを作成していきたい。また、日本語指導担当者だけでなく、担任、管理職も書類の作成に関わってもらい、校内体制の指導・支援を整えていきたい。</li></ul>